

## 学校経営のポイント

### “千里の道も一歩より”の実践を促す

若井 彌一

汗を流さず、社会規範を破ってでも自己の利益を追求したり、他人の権利を侵害したり、さらには生命を奪ってしまう事件が目立つ今年の前半であった。

そんな暗いニュースが多いなかで、国際物理オリンピック（初参加）、国際生物学オリンピック（2回目の参加）、国際数学オリンピック（17回目の参加）において日本の高校生が健闘したニュースは、国民に元気を与えてくれる価値ある朗報である。

#### 国際物理・生物・数学五輪での活躍

今年、シンガポールで開催の第37回国際物理オリンピック（I P h O = The International Physics Olympiad）とアルゼンチンで開催の国際生物学オリンピック（I B O = The International Biology Olympiad）において、I P h Oでは銀メダル1人、銅メダル3人、I B Oでは銅メダル3人が受賞されるという好成績をあげた（7月16日付け『朝日新聞』による）。また、スロベニアで開催（第47回）の国際数学オリンピック（I M O = The International Mathematics Olympiad）では、参加した6人が金2人、銀3人、銅1人の快挙であった（7月18日付け同紙）。

これらI P h O・I B O・I M Oに出場できるレベルに到達している生徒の学力と、数学の四則演算もよく理解できていない生徒では、まさしく「雲泥の差」がある。だが、その差は一朝一夕に生じたものではなく、長期間に及ぶ小さな努力の積み重ねの違いによるものである。「千里の道も一歩より起こる」の大切さを教える好例であろう。

「物理チャレンジ組織委員会」北原和夫委員長（国際基督教大学）のコメントによれば、今回代表の生徒たちは「昨年、物理チャレンジの5時間にわたる課題の取組みのなかで、また先日の派遣候補者の合宿のなかで、物理学の深い洞察に到る力を発揮して

くれました」と述べている（同委員会、プレスリリース、2006年、第1号による）。活躍の予想的中したことになる。

このコメントにある「5時間にわたる課題の取組み」という表現に注目していただきたい。このような長時間にわたる知的作業は、目標意識のない者にはとても耐えられるものではない。その知的作業が、なにほどこかの社会的意義（公共的意義と換言できる）を有しているとの理解と納得があればこそ、耐えられる試練であろう。しかし、多くの児童・生徒にとって、I P h O・I B O・I M Oに参加した生徒の話は、あるいは別世界の話題であって、興味をもてないかもしれない。

#### 学習目標の自覚と実践を促す

幸い、夏の高等学校野球選手権大会がまもなく開催される。いわゆる勉強好きの子どもたちだけが興味を示すにとどまらず、高校野球は「国民的行事」と称されるほどの関心を集めている。その主役は、例外なく長期間の厳しい練習を、目標をもって、主体的に、耐え抜いてきた高校球児たちである。

一戦ごとに、どちらかのチームが姿を消していくが、観戦者は球児たちのひたむきな姿に、忘れかけていた自己の目標を思い出し、はぐれかけていた自己を反省し、努力することの大切さをあらためて自覚する。

主役は、高校野球の選手たちだけではない。誰もが様々な分野で、自分で充実感をもち、人々に感動を与える主役を演じる可能性を有する。

このことに気づかせ、児童・生徒が毎日自分で設定した目標を自覚して、快い汗を流す体験をする夏休みにしたい。その体験を綴ることのできる文章力をつける指導も重要である。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校長併任）

●最新刊発売中！● 上越教育大学附属小学校【著】 B5判 215頁・定価 2520円 教育開発研究所・刊  
子どもに真の学力を！ 過熱する学力低下論争へ上越教育大附属小が現場から実践的提言！

## 『関係力～「子どもが生きる学力」への挑戦～』